

議会だより

9月定例会 No.17
平成21年12月1日

発行 石川県志賀町議会

しか

	ページ
小泉町長所信表明 町政は町民目線で	2
9月定例会 一般会計補正予算 賛成少数で否決	3
マニフェストにある健全財政とは (一般質問)	8



ここから水が出てくるの? (志加浦保育園避難訓練)

5項目の「拓く(ひらく)」を 重点施策として実施

町政は 町民目線で



所信表明を述べる小泉 勝 町長

私は、先の町長選挙で実に多くの人たちに会い、様々な話を聞きました。そこで、感じたのは「町政は、町民目線で行われるべきだ」ということでした。町民の目線で必要なもの、不必要なものを、不足しているものを判断し、町民の暮らしを第一に考えた町政を行うことで、弱い立場の人たちには優しく、すべての町民に公平で、頑張った人が報われる町づくりを進めていくことができると考えています。

このような町づくりを実現するため、町長談話室を設置し、町民の生の声を聞きながら、町民が幸せを感じることができる町づくりを目指して、次の5項目の「拓く(ひらく)」を重点施策として実施していきます。

小泉町長の所信表明(要旨)

健全財政を拓く

投資的経費を抑制しつつ、全ての事業の一点検を行います。

必要なものとそうでないものとの判断の中で、事業の中止、縮小、継続を決定し、財政改革への具体的な対策をまとめ、実行していきます。

若者の雇用を拓く

能登中核工業団地への企業誘致を推進し、新たな企業立地の実現による若者の雇用の場の創出に努めます。

就職希望者に対して、簿記やパソコン教室、あるいは資格取得などの就職支援制度を新設することにより「やる気」を支援いたします。

地場産業の元気を拓く

農工商連携を推進していきます。

素材を提供する側の第1次産業である農業、漁業と、それに付加価値を付けて加工する第2次産業、それを販売する第3次産業の各事業者が、お互いの強みを活かし、新たな商品開発やサービスを創出するために業種を超えて連携する取り組みを支援し、地場産業はもとより、町全体の産業の活性化を図っていきます。

暮らしの安心を拓く

笑顔で安心して暮らせる町づくりを進めるため、各地域で懸案となっている課題を速やかに解決する道筋を付ける必要があります。

町民の皆様、中でも高齢者にやさしい、高齢者が安心して生活してゆける地域づくりを進めます。

地元を愛する心と基礎学力を育てる教育を拓く

子供たちに将来大きな負担を残さず、大きな可能性を大きく開花させるため、幼児期から小学校低学年までの間に、基礎学力の向上を目指していきます。

また、幼いころから志賀町の伝統文化に触れる機会を増やし、地元への愛着心を育て、一人でも多くの子供が地元に着し、町づくりの担い手として活躍してもらいたいと願っています。

21年度一般会計補正予算

賛成少数で

否決

賛成7、反対9、棄権1

討論

焦点

志賀地域の統合小学校の施設整備基金積立金を1億円減額しゼロに

賛成



反対

小学校コンピュータ整備事業、重要河川米町川整備事業、防火水槽の有蓋化および能登中核工業団地排水施設整備事業費も、次代を担う子供の教育や住民生活、若者の雇用の確保に関する重要な事業であり、今回の補正予算計上は時宜に得たものである。

賛成

山本 辰榮 議員

町長は、タウンミーティングで住民からの意見を聞き、それを集約した上で基金についても対応するとしている。公約どおり、町民の声を聞きながら、町民の目線に立った事業の取捨選択、公平で公正な行政執行に努め、町政の推進を図ることを希望する。

反対

稲村 幸雄 議員

志賀地域の小学校統合は、検討委員会の答申を受け、住民合意を形成しながら平成25年4月に統合小学校を開校するため準備を進めてきた。しかしながら、住民への説明もないまま、今回、統合小学校建設事業費の施設整備基金積立金1億円の減額が提案された。今からその財源を確保し、将来の財政負担の軽減を図ることこそが、町長の掲げる「健全財政を拓く」といった方針に繋がるのではないか。基金積立金の減額は住民意思を確認してから決定すべきだ。

反対

林 一夫 議員

教育費の減額部分のみ反対。この項目は当初予算で、平成25年度にも想定される志賀地域での小学校の再編整備に備え、基金造成を目的として提案され可決されている。今までに各種団体の代表者、学識経験を有する方々の判断の上に立つて町長や議会が承認していることを今さら見直す必要があるのか。子供たちの教育環境の資質向上、あるいは教職員の適正配置のためにできるだけ早い段階での統合が必要と考える。今日までの各種団体の代表者による検討、討議の結果は最大限重視されるべきだ。

賛成

南 政夫 議員

これが否決されると国からの多額の交付金を辞退しなければならず、今後の町政運営に多大な影響が心配される。国との信頼関係が損なわれ、今後の補助金等への影響が懸念される。特に国の経済対策と連動した積極的な地域活性化を図るための各事業が

中止や遅延となる等、町民に多大な迷惑をかけることにも繋がる。町民目線で町政を進めていこうとする町長の議案に対して賛成する。

一般会計補正予算 説明不足を町長陳謝

修正案を全会一致で

可決

平成21年度一般会計 **補正予算**

5億2300万円増額

21年度一般会計補正予算は、人事異動による人件費の組み替えおよび国の一次補正に基づく経済危機対策による公共事業費や7月の豪雨による災害復旧費の追加、その他インフルエンザ予防対策費用など町民生活に密接に関連する事業費を含む補正によるものです。主には、財政調整基金の積立、防火水槽新設事業、学校の教育コンピュータ整備、西海漁村公園整備などを計上しました。

(全員賛成)

10月30日第3回臨時会が開催され、同月26日の定例会で否決された一般会計補正予算(第2号)は、小泉町長から修正案が提出され、全会一致で可決されました。

小学校施設整備基金積立金で予算1億円の全額減額を見直しして、予算を千円残し、今後、議会の意見、タウンミーティングでの住民の意見を考慮し検討するとして再提出されたものです。

小泉町長は、提案説明の冒頭、補正予算の趣旨を十分に説明しなかったことを陳謝しました。

小学校の教育
コンピュータ整備



コンピュータを使って学習する富来小児童

5000万円

志賀地域7小学校の教育コンピュータ165台および周辺機器を購入し、情報教育施設を充実します。

志賀高生のバス
通学費を補助

357万円

志賀高校のバス通学者に対し通学費を5年間、月額5千円補助し、支援を図ります。

今年度はバス通学者65人に対し、4月分の定期代まで、さかのぼって夏休みを除く11カ月分を補助します。

21年度各会計別補正後の総額

一般会計	152億9,493万円	
国保	28億2,372万円	
老人保健	890万円	
後期高齢者医療	3億737万円	
農業集落配水	8億3,157万円	
公共下水道	14億3,524万円	
地域し尿	5,032万円	
介護保険	25億279万円	
ケーブルテレビ	2億5,296万円	
町立診療所	1億6,630万円	
簡易水道	1,828万円	
水道	収益的収支	6億3,953万円
	資本的収支	7億7,196万円
病院	収益的収支	12億1,554万円
	資本的収支	1億7,178万円

(金額は1万円未満切り捨て)



防火水槽の新設
有蓋化を促進

3820万円

消防力の強化のため、防火水槽の新設を2基、また以前から地区の要望が多い有蓋化を40基程度施工します。

町営住宅から 暴力団員を排除

条例中、町営住宅の明け渡し条件として「暴力団員および同居親族が暴力団員であることが判明した場合」を追加しました。



暴力団員の入居はお断り
(写真はサンコーポラス高浜)

請負契約変更

定住促進住宅地造成事業
(拠点公園および緑道整備工事)

拠点公園に遊具や園路等の施設整備の追加を行うため737万円を増額。契約金額7840万円。大和建设株(全員賛成)

定住促進住宅地造成工事
(第2工区その1)

前に記載の工事と請負者が同一であり、近接施工で工期も重複しているため、合算で諸経費調整することに伴い482万円の減額。契約金額8637万円。大和建设株(全員賛成)

◆町道末吉線線の終点到延長50mを追加

町道路線の変更



整備が進む延長部分(末吉地内)

平成21年度領家漁港

第2防波堤改良工事

事業の進捗を図るため、残事業費を利用し、5m施工延長、異形ブロックの製作据付58個の増工に伴い1859万円を増額。契約金額9660万円。石田工業株(全員賛成)

監査委員

任期満了に伴う学識経験者の委員の選任について、岡部 修さんの再任を同意しました。



岡部 修さん
(高浜町)

教育委員

任期満了となる教育委員に中島進さんを任命することに同意しました。



中島 進さん
(酒見)

人権擁護委員

金谷由紀枝さん、前田正子さんの推薦が諮問され、適任として答申しました。



前田 正子さん
(中浜)



金谷由紀枝さん
(高浜町)

選挙管理委員

任期満了に伴い、新たな選挙管理委員及び同補充員を選出するための選挙が行われ、選挙管理委員には次の方が当選しました。



寺井 功さん
(富来領家町)



細川 幸男さん
(高浜町)



山本 政直さん
(給分)



村山 恒利さん
(仏木)

◇補充員には次の方が当選しました。

- ①谷場可一さん(上野)
- ②山本政人さん(富来領家町)
- ③岡部 亮さん(高浜町)
- ④石崎 宏さん(西海風無)



上熊野保育園の園児たち(実験農場でリンゴ狩り)

総務

委員長 富澤 軒康
副委員長 林 一夫
委員 戸坂忠寸計
" 小田 芳治
" 辻 武美
" 久木 拓栄

議会の3つの常任委員会では、付託された議案等の審査や所管する事項の諸問題について調査を行っています。定例会開会中の主な審議内容を報告します。

子育て応援特別手当給付金 今後の対応は

問 子育て応援特別手当給付事務費補助金の増額補正は、民主党政権により廃止されるが、今後の対応は。

答 上半期で支払い済みのものであるが、国・県

から具体的な指示が無く、今のところ分からないのが現状である。

問 領家漁港の工事請負契約の一部変更で1800万円の増工。その金額なら変更ではなく、新規工事にすべきでないか。

答 町の要綱によれば、その金額では本来できない。ただし、町長の承諾を得て、変更設計を行うことができるとなっている。今回の工事は海の中の工事であり、分離発注は難しい。

教育民生



4人の新生を迎えて行われた加茂小入学式

志賀地域の小学校は 早急に統合すべきだ

委員長 南 政夫
副委員長 寺岡真貴子
委員 越後 敏明
" 田中 正文
" 櫻井 俊一
" 木村 正男

問 当初予算に平成25年開校を目的とした統合小学校の建設基金1億円を計上。議会も賛成しており、早急に統合すべきだ。

答 統合を止めるのではなく、一度白紙に戻して、タウンミーティングで町民の意見を聞き、考え直したいと思っている。また、10月末までに基金の財源である交付金の方針を決めなければなら

ず、一度減額した。方針が決り次第、元に戻したい。

問 統合に遅れは出ないか。

答 町民の意見を聞いて、統合へ進むのなら、子供たちのため25年度に遅れないように早急にやりたい。

問 バス通学補助は志賀高校への通学者だけが。町内に住んで、他の高校にバス通学している生徒には出さないのか。

答 県は志賀高校へ富来地域からバス通学する生徒に対して、月額1万円を超えた額を5カ年に限り補助する。

町も富来・志賀地域、さらに町外からバスで志賀高校に通う通学者に対し、志賀高校の支援のため、県と同様に5カ年に限り、月額5千円を限度に4月分の定期代からさかのぼって補助する。



しき鳥方式(下水道汚泥を搬出しなくてよい運転方式)を休止した中央水処理センターオキシデーションディッチ

委員長	橘 照茂
副委員長	下池外巳造
委員	須磨 隆正
"	松浦 恒義
"	山本 辰榮
"	稲村 幸雄

産業建設

公共下水道はしき鳥方式で汚泥は出ないのでは

問 公共下水道でかなりの量の汚泥の汲み取りがあるそうだが、現在採用している「しき鳥方式」は何年間か汚泥が出ていないという説明だったが、鳥方式による汚泥処理の

減量化を図ってきたが、現在、満杯の状況である。中央水処理場内の浮遊物が異常な数値が出ており、しき鳥方式を一旦休止して、運転を止めていた脱水機を稼働させ、汚泥を抜き取る通常の方法に戻すよう努力している。

問 町営住宅明け渡し条件の明文化は、町営住宅に暴力団員入居の事実があったのか。

答 今のところ無い。町と警察署で協定を結んでおり、それを明文化した。警察から対象者の連絡があり、対象者は入居させない。

石川県町村議会議長会 議員研修会 (8月11日)



8月11日、石川県町村議会議長会の議員研修会が金沢市内で開催され、12名の議員が参加しました。

研修会では、テレビ朝日キャスター・コメンテーターの三反園訓氏が「舞台裏から見た今後の政局・政治展望」のテーマで、政治経済全般から今後の日本経済についての講演がありました。

原子力発電所対策 特別委員会 (10月21日)



北陸電力志賀原子力発電所2号機の定期検査期間中に発生した6件のヒューマンエラーを受けて、10月21日、特別委員会を開催しました。

北陸電力より、定期検査、6件の事項の概要、原因、今後の防止の取り組みについての説明があり、委員からは町民の信頼を回復させるため全社を挙げて取り組むよう意見が出されました。

マニフェストにある健全財政とは

財政計画の見直しを図る 町長



富澤 軒康 議員

富澤 マニフェストの中に「健全財政を拓く」とあるが、健全財政とは、どのような財政をいうのか。

町長 平成19、20年度の財政健全化判断比率を見れば、夕張市のような財政破綻を起こすことは見受けられないが、投資的事業にかかる建設費用は平成19、20年度いずれも30億を超えており、維持経費や平成24年度がピークとなる償還金の返済など、今後の財政を圧迫することは目に見えている。

建設計画を見直し、生活に直結するものは残し、「ハコモノ」建設を再検討するなど、将来の負担を見据えた財政計画の見直しを図る。

定年退職後の雇用の施策は

事業計画を行っている 町長

富澤 「若者の雇用を拓く」であるが、高齢化が進むことを考えれば、若者だけでなく、定年退職した後の雇用の場合も含めた施策を考える必要があると思うが、どうか。

町長 既存企業へのサポートをし、雇用対策をお願いすることと併せ、「ふるさと雇用再生特別交付金事業」、「緊急雇用創出交付金事業」の事業計画を行っている。

その中にシルバー人材センターへの委託事業もあり、年齢制限は設けず、全ての離職者が対象である。

また、町独自の年齢層を限定しない就職支援制度として、簿記教室やパソコン教室の講座を開設し、技能習得を支援したい。

富澤 「職員のやる気を引き出す」とある。どのように引き出すのか具体的な取り組みと考えは。就任してから各担当課へ、どのような指示をしたのか。

町長 積極的に取り組んだ職員を表彰したり、希望する課への配置、人事評価制度の拡充、また、

現場レベルの意見を吸い上げ、主体的に仕事をしてもらうことも考えている。さらに、環境を整え、職務分担の在り方も見直したい。

各課に対しては、町民に対してしっかりとしたい。あいさつが大事であることを指示した。

富澤 合併時における協定の不均一項目を、早急に町長の英断で統一してほしい。

町長 区道等整備事業補助金、農林水産関係で不均一の負担金、国民健康保険税も、議会と協議し平成22年度から統一したい。

水道事業は、経営シミュレーションの結果や地域水道ビジョンを考慮し、料金統一の前倒しを検討し、議会と協議し平成22年度中に統一したい。

富澤 自治振興基金について、どのように認識しているのか。旧富来町にも新設を願う。

町長 志賀地域における自治振興事業の補助金に充当するための基金を積み、運用を進めていると認識。平成26年度をもって終了したい。

また、富来地域は、新たな財源が必要なことから、該当基金以外の事業として対応したい。



シルバー人材センターからの派遣で働く方々

町づくりの基本目標は

町民本位の町政を行う

町長



寺岡 真貴子 議員

寺岡 本町に足りない点、変革すべき点は。町づくりの優先順位と基本目標は。

町長 町民本位の町政を行うことを基本目標としたい。

町民の暮らしを最優先に考えて町政を行い、弱い立場の人たちには優しく、すべての町民に公平で、頑張った人が報われる町づくりを進めることにより、町民誰もが「生まれてよかったと思える町」「公平・公正な志賀町」に繋がっていくものと確信している。



行革ワーキンググループ会議

現状の行革 どう評価

スピード感が足りない 町長

寺岡 現状の行政改革の取り組みをどのように評価するか。

町長 計画全体の実施済の比率が低く、全体とすればスピード感が足りないように感じている。今年度下半期には、進行中の計画が早期に実現できるよう努めたい。

寺岡 行革推進には、トップの強い意思とそれを反映させる仕組みが必要

だが、町長の考えは。

町長 スピード感のある質の高い町民サービスを提供する町への転換が必要である。

私自身が町民の目線に立ち、町民と協働し、行革のあり方、改革の課題、方向性を的確、迅速に示さなければいけない。全職員あげて地方分権時代にふさわしい行財政改革の推進に邁進したい。

寺岡 課室を減らし、即断即決できる効率的な組織機構の改革すべきだ。

町長 行政ニーズをとらえ、常に組織機構を点検、見直すことが肝要だ。

庁内の連携を強化し、当初の目的を達成した組織については、順次、統廃合を図るとともに、行政組織のスリム化に向けた様々な環境整備にも取り組みたい。

寺岡 住民サービスのこれまでの方をどのように評価し、今後どうあるべきと考えるか。

町長 合併以降、各種施策を実施して、現在の町の基礎を築き上げてもらったと考えている。

今後は、行政と地域・民間との垣根を超えた協働体制を図り、透明性を確保しながら、町民の声を的確に行政サービスに反映させ、公平な行政サービスを提供していきたい。

寺岡 電話や窓口対応を含め、職員のサービス意識改革をはかるべきだ。

町長 一部町民から、職員のないさつができていない、やる気あまり感じられないといった声が聞かれていた。

職員の意識改革の研修の実施を考えている。人事考課にも町民に対しての接遇を評定の一要素に加えるなど、町民が快く感じる職員の接遇能力の向上を図っていきたい。

寺岡 休日、時間外の窓口業務実施について、時差出勤制を導入してはどうか。

町長 今後、住民の要望を聞きながら、時差出勤制による職員の人事管理や図書館を利用した窓口サービスなどを念頭におきながら、住民サービスの向上と業務の効率的な運用について検討を進めたい。

社会資本整備の投資をどう考えるか

一つずつ吟味し計画、実行する 町長



林 一夫 議員

林 5つの重点政策の中での「財政の黒字化」とは、財政指標で言えばどの項目のことであり、数値としてはどの状態のことを指しているのか。

また、社会資本整備や不況対策についての投資をどう考えるのか。

町長 財政運営の良否を判断する実質収支の平成20年度決算に基づいた額は、一般会計で9155万円の黒字となっているが、今の財政状況は、発電所2号機に係る償却資産の一時的な収入過多に過ぎない。

現状の財政運営を続けられ、財政調整基金を取り崩さないと実質収支の黒字を凶れなくなり、やがて基金は枯渇し、赤字団体になることは明らかである。

今から、プロジェクトチームを作り、スピードのある取り組みを進めることが必要不可欠である。



西山台ニュータウン事業の進捗状況を確認する議員ら

住民の生活に必要な不可欠な社会資本整備や現在を取り巻く不況対策においても、財政状況や将来への負担等を十分に勘案して、本当に必要な事業なのかを一つずつ吟味して、計画、実行していく。

林 進行中の建設計画を見直すところがあるが、特定の事業を指しているのか。

町長 下水道事業のように町民生活に直結するものは継続すべきである。

利用されていない施設の費用対策は

返還・取得・移転・取壊しも検討 町長

西山台ニュータウン事業は、本年度で完了することもあり継続する。

今後、予定されている投資的事業は、町民の意見を聞き、着手すべきかどうかを見極めたい。

林 利用されていない施設や利用度の低い施設の具体的な対応、町が支払っている地代・家賃の金額は。これらの費用対策の考えを示せ。

町長 志賀地域は借地34筆で年額152万円、富来地域は借地181筆で年額2348万円。

将来不要となる財産は、不要となる時期に賃貸借契約を解消して地権者に返還し、将来にわたって必要な財産は、適正な時価により取得したい。困難な場合、施設の増改築時期に移転または取壊しも検討する。

林 合併協定書の内容を遵守することは大切なことだと思つう。

町長は財政状況を見ながら全ての面で旧二町に残る格差は無くしたいと

答えているが、その判断は、どの財政指標の状況を指すものか。

町長 毎年議会に報告している健全化判断比率等の4指標の他、中長期財政計画に基づき総合的に調整すべき事項である。

今後の見直しが合併協定項目などに及ぶ場合は、議会、行財政改革推進委員会や町民の意見を聞き、十分な協議を行った上で対応したい。

林 職員にはどのような姿を期待し、パートナーシップを持って町民の付託に応えていこうと考えているのか。

町長 公務員としての職業が持つ特性と職責を十分に認識してもらおうとともに、私もしっかりと目標を持った職員の育成に努めていきたい。



下池 外巳造 議員



平成16年9月13日に志賀町文化ホールで行われた志賀町・富来町合併協定調印式

特別財政基金、自治振興基金

合併協定書は厳守すべきだ

最良の用途を考えたい 町長

〔下池〕 平成16年9月13日に調印の合併協定書には、「旧志賀地域の振興事業費に充当するための基金を積み立てる。積み立てる額は41億円とする」とある。

特別財政基金、自治振興基金の平成18年度から平成21年度の基金積立金を見ても、41億円には程遠く、また、旧志賀地区の振興に全額使うことと協定書に書かれている。旧志賀町長、立会人石川県知事、以上の3名の厳粛な調印であり、厳守すべきである。

〔町長〕 基金総額41億円のうち、特別財政基金には約32億円、地区自治振興基金は約9億円を積み立てることになっている。

本年度の当初予算では利子も含め、特別財政基金に2億384万円、地区自治振興基金に3億1360万円を積み立てることとなり、平成21年度末の時点での予定では、特別財政基金が24億350万円、地区自治振興基金が9億4080万円となり、地区自治振興基金は目標に達する予定である。

特別財政基金も、目標額の32億円まで、あと約8億円であり、今後、計画的に積み立てを行う予定である。

特別財政基金の用途は、合併協定により志賀地域の地域振興に充当するとあるので、今後、市民の意見を聞きながら、議会とともに最良の用途を考えたい。

千鳥ヶ浜シーサイドエリア整備事業は 地区が長年要望した必要な事業だ

土地所有者の同意が得られれば早急に

町長



越後 敏明 議員

越後 千鳥ヶ浜シーサイドエリア整備事業は、担当課の事務手続きも終え、後は入札待ちの状況だったところまで進んでいたが、新町長就任後、わずか2日目に突然の事業凍結を決定された。校下7地区の長年の要望であり、これまで町の合併等により紆余曲折を経て、今やっと目の目を見た事業である。事業に対しては国の補助金も決定され、いわば国のお墨付きといわれた必要性のある事業と想っている。

事業凍結は土地所有者の同意が難しいとのことであるが、それは土地所有者に対しての単なる見立てによるものではないか。

土地所有者の同意が得られれば、町単独事業として実行することであるが、その場合、いったい工期は何年位の考えなのか。

町長 土地所有者全員の同意が得られれば、工事期間の予測はつかないが、事業費約8億円程度を町単だけではなく国の補助金を要望して、早急に工事が完成するように努めたい。

越後 従来、道路建設では、その性質上、土地の買収と工期をいわば見切り発車的に並行して行っていくことが、数多く見られていたが、今後の方針として道路整備には、すべての土地所有者の同意が前提条件となるのか。

町長 道路改良の虫食い状態での整備を避けるため、国や県でも土地所有者の同意を原則としており、町もそのようにしたい。

施策継続が大切ではないのか

決して凍結ではない

町長

越後 早々の国への補助金の返上は、当然、町の負担として増えるが、公約の財政改革とは異なるのではないか。

町政は税で成り立っていることを思うに、たと

え町のトップが交代しても、一旦、意見集約をされ結論を得たものは、特別社会的な変化のない限り、施策継続が大切ではないのか。

町長 今回は、用地買収が困難であることが予測でき、国の採択を受けて、内定通知のある調査費400万円を県と協議して、町道高浜志賀の郷線の路面改良に充当する。土地所有者の全員の同意が得られ次第、町単事業で調査を実施、事業費は国の補助金を要望し、採択を受ける予定で、決して凍結するものではない。



都市計画道路大島今市線の終点となっている「はまなす交差点」から向こう側が千鳥ヶ浜シーサイドエリア整備事業計画予定地

町職員を民間企業に派遣しては

実施の可能性を検討したい 町長



南 政夫 議員



勤務評定者研修でグループごとに意見を出し合う町職員

南 町長自ら町民のところに足を運び、その声を町政に反映することはもちろん良いことだ。その一方で町職員にも町長の思いを理解してもらい、役場から色々な業界、企業、施設等へ出かけ、現場の生の声、意見、情報などを報告してもらい、町政に反映していくことも、より良い町づくりを進めていく一つのやり方かと思うがどうか。

研修の状況

(1) 町研修会・講習会

(平成 20 年度)

研修会名	開催回数	受講者数
新採職員研修	1回	3人
法制執務研修	1回	19人
コンプライアンス研修	1回	49人
勤務評定者研修	2回	103人
行政改革研修	3回	260人
合計	8回	434人

(2) 派遣研修

(平成 20 年度)

研修区分	期間	受講者数
石川 川 県	1年間	1人
石川県市町村職員研修所	1日～4日	64人
全国国際文化研修所	10日間	1人
その他研修機関	1日～2日間	10人
羽咋郡市会	1回	30人
合計	—	106人

職員の勤務能率・資質の向上のため、各種研修会の開催、職員研修所などへの派遣を実施しています。

町長

平成19年に策定した「志賀町人材育成基本方針」に基づき、県地方課や自治大学校への派遣、県税務課との職員交流事業など職員派遣を実施して、行政事務に関する知識や技能の習得に努めている。

しかし、指摘の民間の事業所での職員派遣研修は、実施していなかった。

民間企業の業務を体験し、職員の意識改革と職務能力の開発・向上を目的として、各種企業等に職員を派遣する自治体が増加しており、企業のコスト意識、スピーディーな取組姿勢、お客様に対する接客態度など民間に学び、行政経営に活かせる点が数多くあると思っている。

また、私の政治信条でもある住民の意見を反映

できる町政、生活者の目線に立った町政といった観点からも、職員が各種企業の方々と接し、事業所の実態、そこで働く方の意見などを聞かせてもらうことは、大変貴重な体験であると考えています。今後は職員派遣による業務への影響、派遣先派遣期間なども考慮した上で、実施の可能性を検討したい。

第20回 志賀町を描く美術展 第20回 記念賞の作者に聞く!

芸術文化の振興を願い、志賀町の美しい自然や生活、産業や夢などを描いていただく公募展を毎年開催しています。
 昨年(2020年)の11月には第20回の審査が行われ、次の方が、第20回記念賞に選ばれましたので、作者の感想を交え、ご紹介させていただきます。



米谷 隆 さん
 (小松市)

作品名 「鷹の巣岩」



前回は残念ながら選に漏れたこともあり、今回の入選は格別なものがありません。
 10月初めの頃、志賀町を訪れて変化に富んだ海岸を散策し、その足で遊覧船に乗り、透き通った海と奇岩、怪石を見て感動し、その思いを持ち帰り一気に画面に打ち付けました。

TOPIC's トピックス

第4回いしかわっ子金沢城駅伝交流大会

富来小女子チーム初優勝

選手たちは9月から2か月間、多い日には8キロから9キロの距離を練習してきました

当日は雨の降る悪いコンディションの中、厳しい練習で鍛えた強い精神力を発揮して、全員が区間3位以内の快走で初優勝を飾りました。



前列左から高島さん、橋爪さん、小山さん、的場さん、後列左から東さん、倉脇さん、源代さん

選手たち 9月から2か月間、多い日には8キロから9キロの距離を練習してきました

当日は雨の降る悪いコンディションの中、厳しい練習で鍛えた強い精神力を発揮して、全員が区間3位以内の快走で初優勝を飾りました。

的場 有沙さん (6年)

優勝できたのは周りの皆さんのおかげ、感謝の気持ちを忘れずに走った。

小山 実優さん (6年)

後ろが気になったけど練習の成果を信じて走った。先頭でたすきをもらったので絶対に1位で帰ろうと思った。

高島 早紀さん (6年)

みんなが一生懸命走って離してくれたので先頭を守りたかった。

源代 結花さん (6年)

ゴールを切ったとき、みんなが喜んでくれてうれしかった。

倉脇 祐実さん (5年)

(記録会の部2位) 来年はチームの連覇を狙います。

東 沙菜さん (5年)

来年は走って、絶対に優勝したい。

傍聴に おこしく下さい

議会傍聴は、議会だよりでは伝えきれない議会の様子を見聞きできます。傍聴の際は、議会事務局で住所・氏名などを記入します。団体で希望される場合は事務局までご連絡ください。



議会広報特別委員会

議長	戸坂忠寸計
委員長	田中 正文
副委員長	富澤 軒康
委員	橋 照茂
	下池外巳造
	越後 敏明
	櫻井 俊一